

シンポジウム

「外の世界と、希望で繋がる。」— 小児支援におけるメタバースという選択肢

健愛会あきやまクリニック

リハビリテーション部

理学療法士

虎一真

(ハンドルネーム：星野うゑあ)

病室や自宅から外出が困難な子どもにとって、社会参加機会の制限は心理的負担や孤立感の増大に直結する。ICFにおける「参加」の視点からも、環境調整による参加機会の創出は小児リハビリテーションの重要課題である。本発表では、その代替的手段として小児支援におけるメタバース活用の可能性を検討する。メタバースは障害の有無に関わらず同一空間で交流可能な環境を提供し、物理的制約を超えて社会参加を補完する媒体となり得る。特にVRゴーグルに依存せず、PCやタブレット、視線入力や各種スイッチを活用したアクセシブルな設計は、身体機能に制約のある小児にとって導入障壁が低く、医療現場での応用可能性が高い。実践例として、入院児や不登校児を想定したモデル設計に基づく「バーチャル英雄譚 Brave Beat」を紹介する。参加者がアバターを主体的に操作し物語内で役割を担う体験は、他者からの承認や成功体験を通じて自己効力感を高め、結果としてデバイス操作への内発的動機づけを促す可能性が示唆された。医療者の専門的関与と組み合わせることで、活動から参加への橋渡しを支える新たな社会的処方としての展望と課題を論じる。また社会的処方として位置づける展望と課題を論じる。
